

特集

神栖ウインドアンサンブル

吹奏樂が結ぶ人と人のハーモニー

神栖市で唯一の吹奏樂団、神栖ウインドアンサンブル。幅広い年代の市民が音楽で結ばれ、和気あいあいとして、そして熱心に活動しています。今回は、演奏する人も聴く人も楽しめる吹奏樂の魅力に迫ります。

さまざまな音色を全身で聴く

吹奏樂というと、皆さんは何を思い浮かべますか。学校行事のときに吹奏樂部の演奏を聴いたり、音楽室で練習する音が放課後の校庭に流れてきたり……。そんな思い出のある方も多いのでは？

日川公民館からも毎週水曜日の夜、いろいろな樂器の音が聞こえてきます。一日の仕事や家事を終えて集まってくるのは、神栖ウインドアンサンブルの皆さん。約12年前に神栖市で初めて結成された市民吹奏樂団です。その練習の様子を見学させて

もらいました。

そもそも吹奏樂というのは、主に木管樂器・金管樂器・打樂器で演奏される音楽で、弦樂器は唯一コントラバスだけが加わります。この日は定期演奏会に向けた練習に団員など25人が参加しました。

指揮者の一振りでも演奏が始まります。クラリネットの柔らかな音色に、フルートの華やかさとピッコロの軽やかさ。伸びやかなトランペットとどっしりとした重低音のチューバ。リズムを刻む打樂器。指揮者の指示で中断しては、部分的に修正し、また合奏を再開します。指揮者と楽団員

の間で交わされる無言の会話。その場にいるだけで音の振動が体全体に伝わってきて、耳だけでなく全身で吹奏樂を聴いているような感覚に包まれました。

大切なのは演奏を楽しむこと

神栖ウインドアンサンブルの活動や吹奏樂の魅力について、団長の和泉好明さん、指揮者の小林一志さんと津崎未佳さんに話を聞きました。

現在の団員数は23人。年齢は10代から70代まで幅広く、親子で入団している人もいます。私は高校生の時に入団したのですが、年齢の離れた皆さんが吹奏樂の仲間としてやさしく迎え入れてくれました」と振り返る津崎さん。

最年長の小林さんは「音楽に年齢は関係ありません。プロではなくアマチュア集団ですから、みんなで演奏を楽しむことが一番の目的です」と話します。その言葉どおり、団員同士の雰囲気はとても和やか。ただし練習と

毎週水曜日の夜に日川公民館で行なわれる練習の風景。団員たちの年代は幅広いが、仲が良く和やかな雰囲気。合奏練習が始まると、とたんに真剣な表情で音楽に向き合う



津崎さん 和泉さん 小林さん



指揮者の一振りで演奏が始まり、木管樂器や金管樂器などさまざまな樂器の音が溶け合って美しいハーモニーが響き渡る